

事業報告

平成30年度 教育事業 ジャンプアップキャンプ②

平成30年10月27日(土)～28日(日)

【対象】小学校3・4年生

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣 旨～

小学校中学年の子どもたちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行うことを通して自分に自信をつけ、協調性を育み、人間関係の幅を広げるきっかけづくりとする。また、企画・運営は当施設法人ボランティアが中心となっており、子供達の活動・学びを支援する。

～主催・後援団体～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後 援：伊那市・伊那市教育委員会

～活動日程～

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21			
1 日 目	受付 10:40～11:15					開 会 式	昼 食	活 動 準 備	自然の中で遊ぼう 「チームで挑め 朱雀の試練」				夕 べ の つ ど い	夕 食	入 浴	ナイトプログラム 「体感せよ青龍 五感の力」		就 寝 準 備	就 寝
2 日 目	起 床	朝 の つ ど い	朝 食	清 掃	楽しい野外調理 「みんなで作ろう秘伝のレシピ」			ま と め の 会	閉 会 式	解散15:00									

～参加者～

小学3・4年生 計38名(長野県：37名, 山梨県：1名)

～活動トピックス～ 活動Ⅰ 自然の中で遊ぼう「チームで挑め 朱雀の試練」

西尾根・硫黄沢エリアを使い、忍者「朱雀」からの様々なミッションをクリアして、忍者になる活動を楽しんだ。川に浮かべられた文字を組み合わせて謎を解き、箱の中から目当ての手裏剣を取り出す水の試練では、謎が解ける度に子どもたちから歓声が上がった。難しい課題をグループの仲間と話し合いながら解決していくことで、「すごいね!」「〇〇ちゃんのおかげで。」など互いの良さを認め合い、チームの絆を深めることができた。



活動Ⅱ ナイトプログラム「体感せよ青龍 五感の力」

活動Ⅰ「朱雀の試練」をクリアして、忍者になった子どもたちは、新たに忍者「青龍」からの課題に挑んだ。ボランティアが夜の暗さを楽しめる活動を企画して、子どもたちは家では体験できない雰囲気味わうことができた。体を使って影絵を作り、そのお題を当てるクイズや、暗闇に隠された文字をつなぎ合わせて謎を解く文字のミッションなどを行った。最後に班ごとにキャンドルの火を囲み、1日の中で感じたことや、友達への感謝を伝えあった。

午前中に緊張した表情だった子どもたちも、互いを名前呼びあるようになり、打ち解けた暖かい雰囲気で1日目の活動を終えた。



活動Ⅲ 楽しい野外調理

「みんなで作ろう！秘伝のレシピ」～パンプキンシチュー、棒パン、スイートパンプキン～」

野外調理でパンプキンシチュー、棒パン、スイートパンプキン作りを行った。最初に班に分かれて、作業を分担してお互いの作業を把握して調理ができるようにした。その際、ホワイトボードを使って、作業の順番を子どもが考える活動を取り入れたので、話し合いや工夫が生まれ、一人ひとりが積極的に調理に参加することができた。パンが膨らんでくると、他の作業をしている友達を呼びに行き、出来上がる過程を班のみんなと一緒に楽しむ姿が多く見られた。



～参加者の声～

《参加児童》

- みんなで協力して試練を乗り越えたり、ごはんの時も楽しくて笑顔になれた。話し合いもできた。とても楽しかった。
- はじめは友達ができるか心配だったけど、班全体と友達になれてうれしかったです。
- 最初は緊張していたけど、だんだん楽しくなってみんなと仲良くなれた。みんなで作ろう秘伝のレシピはしんばいもあったけど、最後には成功して良かった。
- 朱雀と青龍の試練が難しかったけど楽しかったから思い出になった。ジェスチャーゲームや謎の試練が楽しかったです。忍者の服を着たり、もっとたくさん試練をやりたい。

～成果と課題～

- 企画委員に1年生を加えボランティアの学びの場とすることができた。活動を分かりやすくしたり、数を精選することで、余裕を持った運営ができた。その結果、班つきボランティアも時間に追われるのではなく、キャンプのねらいを意識して子どもとかわることができた。
- 野外調理でホワイトボードを使って手順を計画したが、風で倒れるなど安定性に課題があった。